

おねショタ捕食

【第1話】 食べてもいいよ

ここはファンタジー世界。多くの人喰いモンスターがはびこり、人間は怪物たちの獲物として狙われ、喰われていた。

様々な人喰いモンスターがおり、中には人間の姿に似ている種類も多くいた。クモ女もそれに含まれる。見た目は10代の若い女だが、背中からクモの足が生えており、肛門から粘着質でしかも硬くしなやかな糸を出す。そして森の中でクモの巣を張り巡らせ、罠にかかった獲物を捕らえて食べてしまう。

とある森。一匹のクモ女が腹をすかせていた。前の食事は1ヶ月前も前。ワンピースを着た13歳の少女。不運にもクモの巣に触れてしまった彼女は身動きがとれなくなり、簡単にクモ女に捕まってしまった。

自分が食べられそうになっていることに気づいた少女は、泣きながら命乞いをした。人型のモンスターは言葉をしゃべれる種も多く、このクモ女も会話することが出来た。が、当然見逃してもらえるはずもなかった。人の見た目をしても怪物であり、彼女からしてみたら少女はご馳走なのだから。

クモ女は獲物が恐怖する姿を見るのも好きだった。狩猟本能が刺激され、興奮する。なので、あえて獲物を怖がらせながら食べていくこともあった。

震えながら少女は

「……食べないでください……お願いします」

と懇願する。クモ女が

「食べられたくない？」

と答えると、少女は涙と鼻水を流しながら何度もうなづく。

「お腹が空いてるから～、食べてから考えるね♡」

と答えると、少女は恐怖のあまり失禁してしまった。

「あら～～、汚れちゃったぁ？キレイにしてあげるね♡」

と言うとクモ女は、少女のワンピースをビリビリと割き、パンティも破り捨てた。筋力は人間とは比較にならない。たとえクモの糸で拘束されていなかったとしても、筋力だけでねじ伏せられていただろう。

そして少女の無毛の陰部や生尻があらわになった。食欲だけでなく性欲にも駆られたクモ女は、少女の股間を舐め回す。少女は前にも増して泣きわめく。おかまいなしに少女の割れ目、クリトリス、肛門を舐め回していく。クモ女は興奮しながら、舌を尿道や性器や肛門に突っ込んで、内側も舐め回す。

「許して～～！食べないで～～！！」

「え～～、こんなに美味しそうなのにい？お姉さんガマンできないなぁ♡」

クモ女は少女のワンピースを完全に破り捨てる。自分の意思であれば、クモの糸の粘着性を落とすこともできるようで、少女の衣服は完全に破り落とされ、丸裸にされてしまった。そして今度はまだ成長しきっていない少女の乳房を舐め回したあとで、

「う～～ん、もうちょっと育ってから食べたかったな～～♡まあいいや★」

と言って、今度は少女にキスをする。舌を少女の口の中に強引に突っ込み、口内や舌を舐め回す。うめき声を上げる少女だが、なんの抵抗もできない。そして少女の顔面まで舐め回す。そのうちガマンできなくなったクモ女は、少女の無毛の陰部に喰らいつく。

「ぎゃあーーーー！！痛い！痛い！やめて、食べないでー！！」

泣き叫ぶ少女だが、クモ女はさらにあごに力を込める。そして少女の陰部の肉が喰いちぎられる。絶叫する少女。

クモ女はくちやくちやと少女の肉を咀嚼し、美味そうに呑み込む。そして貪るように少女の性器の肉に喰らいつき、喰いちぎり、咀嚼して呑み込む。次は尻肉。柔らかい尻肉を貪り喰っていく。

臀部の肉を喰い尽くすと、さらに奥の肉を喰おうと喰らいつく。すると少女の尾骨に歯が当たって止まる。が、さらにあごに力を込める。

メキメキッ……バキッ……

なんと、骨を噛み砕いてしまった。口に含んだ少女の尾骨を、ペッと吐き出すクモ女。そして少女の肛門括約筋を喰いちぎり、咀嚼する。噛み応えがあって心地良い。呑み込むと、さらに奥にあった直腸を貪っていく。次に（体内の）性器を貪り、次に膀胱に喰らいつく。すると、まだ中に残っていた少女の尿が、ブシャー！と吹き出した。

少女の血液と尿を顔面に浴びながら、クモ女は美味そうに美味そうに肉を喰っていく。そして腰の中の臓器をすべて喰い尽くされた少女の目は、すでに焦点を失っていた。

そんなこと気にも止めず、クモ女は少女の太ももに喰らいつき、貪り喰っていく。そして1時間も経たずして、そこにはバラバラになった骨だけが残っていた。

……美味かったあ～～……

そんな感覚が蘇り、ヨダレを垂らしたクモ女は性的にも興奮し、自らの股間をまさぐる。が、獲物はあれから現れず、空腹と欲求不満がピークに達していた。

エサはまだか！ はやく喰わせろ！

しばらくすると、クモ女は獲物の匂いを嗅ぎとる。そして姿を現したのは幼い男の子。5歳ぐらいの、いかにも村人の子といった感じ。クモ女の目がギラつく。クモの巣にかかるとのを待つまでもない。簡単に捕まえられる。

クモ女は男の子の前へと姿を現す。そしてギラついた視線を向けたまま不自然な笑顔を見せる。

「ボクう～、どうしたの？ こんな森の中で。迷子かな？」

男の子はニコニコしながら視線を返し、

「さんぽ～おなかすくまで～さんぽ～」

と言った。クモ女は男の子を抱き上げた。

「そうなんだ～、お姉さんもうお腹空いちゃった」

と言って顔をグリグリと擦りつける。すると男の子は、

「おねえちゃん、おいしそう」

と返す。

「え～～、そうなのお？ でもねえ、ボクが私に食べられるんだよお？」

「いいよ」

「え？」

「いいよ、たべても」

と言って男の子ははにかんだ。